2019年4月

小高復興デザインセンター

小高志

No.16

「あたらしい季節を迎える」

まちなか菜園でヨガ&菜園づくりレクチャー!

まちなか菜園を利用して空地でいろいろな活動を始めてみよう! ということで、昨年11月25、26日、東町ひだまり菜園と屋根園（菓詩工房わたなべ隣）にて青空ヨガを、そして12月8、9日には菜園づくりの講師（はたあきひろさん）をお招きしてレクチャーを行いました!

菜園で青空ヨガ!

東町ひだまり菜園では、椅子に座りながらでもできる体操を、青空の下で。砂利敷きの屋根園でも手作りウッドデッキでヨガをしました!

菜園レクチャー

まちなかに笑顔あふれる菜園を

菜園のレクチャーでは第一部で座学のレクチャー、第二部ではまちなか菜園をめぐるまちあるきでそれぞれの菜園をみてアドバイスをいただきました!

「100年小高を感じる会」を共同開催しました!

平成31年2月23日（土）午前10時〜午後3時、小高交流センターにて、おだかぷらっとほーむさんやみなみそうま復興大学さんらと協働イベントを開催し、200人を超える方々にお越しいただきました。大阪大学アカペラサークルうたゆぃさんや、地元バンド音楽工房さん、すえながしょうすけさんによる音楽演奏、村上の田植踊りや上浦の神楽の伝統芸能、南相馬市教育委員会文化財課さんや建物専門家の金出ミチル氏らを招いたトークサロン、みんなでコーラスなど…盛りだくさんな企画となりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました!

南相馬市教育委員会文化財課 佐藤友之氏、金出ミチル氏とデザインセンターで小高の歴史についてトークサロンを開催しました。

村上田植踊り保存会さん

上浦神楽保存会さん

小高復興デザインセンター

2016年夏から2019年春まで御一緒いただき、ありがとうございました。今後もよろしくお願いします。

場　所　双葉屋旅館さまのご厚意で、希来隣のスペースをお借りします。

時　間　原則平日10〜16時。急遽、閉室する場合もございます。ご連絡いただければと思います。 小高復興デザインセンターのウェブサイトもご覧ください。

連絡先　メール　odaka@td.t.u-tokyo.ac.jp

Web　http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/　https://www.facebook.com/OdakaRC/

小高と復興デザインセンターの三年間の足跡

- 2014 小高区の出来事
- 2016 避難指示解除
- 2017
- 2018
- 2019

エンガワ商店開店
小高病院外来開始
火の祭り復活
小中学校が区内で再開
小高産業技術高校が開校
特別養護老人ホーム 梅の香再開
小高ストア開店
小高交流センター開所

小高復興デザインセンターに関する取り組み

- 地域協議会での議論
- 小高あるき
- まちなかプラン
- 上浦あるき

小高復興デザインセンター 開所

- 聞き取りや会議等を通じた課題、問題の情報収集 → 2019 年度も継続します
- 部会・定例会を通じた課題、問題の共有
- 東町ひだまり菜園での協働 → まちなか菜園事業・生き生き菜園事業 → 2019 年度も継続します
- 行政区などの皆様との協働 → 地域盛り上げ支援事業 → 2019 年度も継続します
- 上浦の今後を考える WS
- 川房での懇話会
- 浦尻未来検討会 → 小高地域づくり手帖発刊
- 大富ひまわり迷路
- 高校生（LLO）によるまちづくり活動支援
- 第1回大蛇伝説まちあるき
- さくらサロン
- 妙見公園整備
- 秋祭りでの出張デザインセンター

協働マップ まちなか編

まちなかではまちなか菜園事業などを通じて、これまでに、6カ所空き地を使った菜園や広場を地域の皆様と作ってきました。また、蔵を使ったカフェや高校生イベントなどの取り組みも展開してきました。

協働マップ 集落部編

地域盛り上げ支援事業などを通じて、集落部では７つの行政区と協働し、地域コミュニティ再生に向けた多様な実践を行ってきました。また、地域の皆様が取り組まれている実践活動を「小高地域づくり手帖」にまとめたり、小高志を通じて紹介してきました。

★ 地域の皆様とデザインセンターが協働で実践した取り組み
★ 地域づくり手帖や小高志で取り上げた行政区の皆さんによる取り組み

小高復興デザインセンターの取り組みを振り返ります

東京大学地域デザイン研究室

2014 年に初めて小高を訪れてから 5 年が経ちました。何をすべきか、当初は全く想像もつきませんでしたが、小高のみなさまに、生の声で思いをお伝えいただく中で、小高に対する理解を深めました。

ささやかな意思をとにかく実現する重要性を強く感じるようになりました。最初から成功するとわかっている実践などありません。効果がすぐ現れる取り組みもありません。

それでも、まずは実践することで、人と人がつながり、ひとときでも楽しい時間が共有できることで十分に意味があります。

もっと続けた方がよい実践については、取り組んできた内容を手直ししながら、予算化するというサイクルを作ろうと考えました。それでできたのが「まちなか菜園事業」と「地域盛り上げ支援事業」です。

1 未来の小高はどんなまち？

2014 年から 2 年間、小高区地域協議会のメンバーのみなさんと共に議論を重ねました。

未来の小高はどんなまち？

昔の小高はどんなまちだった？

小高の復興像と、それを実現する協働の場が必要だという認識に至りました。

2 力を合わせる場をつくろう

2016 年の避難指示解除に合わせて、小高復興デザインセンターができました。

地域の方、高校生など様々な方との協働が始まりました。

協働のためには情報共有も欠かせません。そこで小高の全世帯に「小高志」もお届けしてきました。

恒例になった大蛇あるき。小高の歴史を感じます。

高校生が Live Lines Odaka というグループを立ち上げて、色んな方にお話をお伺いしました。

3 色んな想いを形にする

2016 年は、現地調査で実態を把握し、テーマを決めて部会や総合的な定例会を開き、何をすべきか議論を重ねました。

2017 年になると次第に「今度○○をやるから協力してほしい」と声をかけていただくようになりました。様々な方の力を借り、それを合わせる工夫をして、小高のみなさんの色んな想いを形にしました。

定例会と４つの部会

生業部会
小高にふさわしい産業を検討し、新たな生業の創造や事業再開・継続の支援する

定例会
各部会の議論に基づきつつ、大所高所から小高の将来を議論する

災害リスク部会
放射能リスクへの対応を生活に円滑に取り入れる技を構築する

まちなか部会
空き地空き家・歴史的建造物の活用や二地点居住を検討する

つながり部会
日常生活の足や被災に関連する分断を結び直す

集落部

●土地と一体となった暮らしが美しい風景を作ってきた。
●自分たちの力で動いている行政区がいくつもある。

浦尻では土地の利用と管理を話し合い、アンケート意向調査を経て住民による管理組織が立ち上がりました

上浦では、行政区史を紐解き、住民の方のみならず歴史好きも集まり、みんなで上浦あるきをしました

実践をすれば、つながりが生まれる。
集落部において、
住民主体の活動を形にしていこう。

地域盛り上げ支援事業へつながる

まちなか

●歴史の町・小高の顔として、まちなかは大切にしたい。
●建物解体後、空地や復興事業による施設等が増えた。

東町災害公営住宅のみなさんによる空き地利用の菜園がご縁で、若者を招いて収穫祭です

小高上町に昭和初期からどっしり構える高島家の蔵は、登録文化財になりました

空き地を使って、
人の気配がするまちなかにしよう。
みどりは小高駅前通りの新しい魅力。

まちなか菜園事業へつながる

避難指示解除

これまでの小高志

小高志は、2015 年 6 月から始まりました。小高の復興に向けた志を共有する方へ届ける気持ちで「小高志」と名付けました。

避難指示の解除前だったので、小高の美しい風景を表紙にしました。
避難指示の解除後は暮らしが戻ってきた力強い風景を届けてきました。

これまでのご愛読、ありがとうございました。

4 二つの事業に取り組んできました

まちなか菜園事業

まちなかでの実践を発展させ、住民有志グループ「小高はなみちプロジェクトチーム」や NPO 法人 balloon との協働により、「まちなか菜園事業」として、空き地を菜園にする取り組みを行っています。事業では菜園参加者にプランターやベンチなどを無料でレンタルし、空き地を菜園として整備していただき、地域活動やコミュニケーションの場として活用されています。

そよ風ガーデン

土地所有者の方から無償で借り受けた空き地を使い、モデル菜園を整備しました。まちなか菜園事業の拠点となっています。

屋根園

主に 5 区の皆さんと協働し、整備しています。地域に開かれた広場として、バーベキューやヨガなどでも活用しています。

生き生き菜園

広い農地を区画で区切ってお貸しすることで地域の皆さんで野菜づくりを楽しんでいます。「おだかの元気を耕す会」により運営されています。

地域盛り上げ支援事業

行政区の皆さんが、つながりの再生に向けて主体的に取り組む実践を支援する「地域盛り上げ支援事業」を行っています。内容は行政区の個性や状況によって様々ですが、いずれの活動でも地域の皆さんが集まって行政区の将来を考えるきっかけとなっています。また、取組の実践・提案集である「地域づくり手帖」を作成しました。

行政区史づくり（神山）

行政区の歴史を残したいという想いを「行政区史」という形にしています。地域の皆さんで集まり、昔の写真などを元に語り合っています。

沿岸部の活用（塚原）

津波で被災した沿岸部をまたみんなで集まれる場所とすべく、グラウンド・ゴルフ場を手作りしました。海岸沿いをアートで彩る検討もしています。

公会堂の再生（川房）

地域の拠り所として、いつでも気軽に利用できる公会堂の再生を目指し、専門家を交えて、改修に向けた話し合いを進めています。

2年間、小高復興デザインセンターで苦楽を共にした村田 博さん
（元小高区役所長・元小高復興デザインセンター常駐市職員）

3 年目が終わろうとしている今、客観的にデザインセンターの活動はどう見られていますか？

コミュニティ再生がテーマでした。地震・津波に加えて原発事故災害があった分、どれだけのコミュニティが再生されてきたかというと、いささか…。小高全域では難しかったのかなと思います。仕掛け不足なのかなというところもあります。少し悔いが残るのは、関われたのは限られた行政区だけだから、もう少し風呂敷広げてやればよかったかなとも思います。まちづくりは行政だけではできないので、住民と行政が協力することが大切です。

細々とした活動ではあっても、デザインセンターがなければできなかったことは？

浦尻、上浦でやっていたことなどは、大学が関わったセンターでなければ一切できなかったと思います。

2019 年で震災から 8 年になりますが、これから必要になってくることは何だと思いますか？

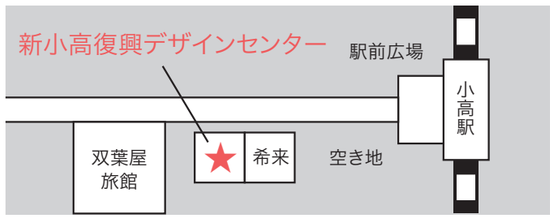
人口回復するには、高齢化率 50% で、生産年齢人口が少ないので、企業など働けるようなところができれば違うと思います。帰りたいと思っていても、避難先で若い人が働かないではいられないから、仕事し始めたらなかなか小高に来られません。子どもも、区切りのいいところでないと転校できず、教育環境も必要です。もしくは企業ができなくても、原町・鹿島で働いて、住むのは小高でベッドタウンでもいいと思います。あとは、今都会の人で、第二の人生を田舎暮らしでやるという人もいます。あるいは、往復でもいいから、都会と半分半分とか。だんだん小高に住み着いて、最後は息子・娘がいるから都会で暮らすとか。他所から来る人も受け容れる仕組みづくりが大事です。東部・中部・西部で運動会や、有名な方が来てお話するようなこともできるといいし、そういうことを自分の現役時代にやりたいという考えも持っていました。

村田さんは、いつもは周りを笑わせようと全力なムードメーカーなのですが（笑）、今後の活動については、叱咤激励をいただきました！南相馬市職員時代から引退後の今も、誰よりも小高のまちの将来のことを自分ごととして考え、自ら率先して動いていらっしゃるからこそのご意見です。

本当にありがとうございました！今後とも引き続き、よろしくお願いいたします！

これまで様々な場面で、御一緒いただき、どうもありがとうございました。新しい小高復興デザインセンターでも、御一緒できることを楽しみにしています。

東京大学地域デザイン研究室



場所：双葉屋旅館さまのご厚意で、希来隣のスペースをお借りします。

時間：原則平日 10 ～ 16 時。急遽、閉室する場合もございます。ご連絡いただければと思います。 小高復興デザインセンターのウェブサイトもご覧ください。

連絡先：メール odaka@td.t.u-tokyo.ac.jp

これまでを一緒に汗をかく機会のあったみなさま、暖かく見守ってくださったみなさま、ありがとうございました。成功したことばかりではなく、せっかくの皆様からの素晴らしいアイディアを形にできなかったことも多々ありました。力不足で申し訳ありませんでした。2019 年度からは、現在の旧社協会館を離れ、左記の場所で小高復興デザインセンターを継続し、実践のお手伝いをしてきたいと思います。穏やかで楽しく暮らせる小高をとりもどすために、「まちなか菜園事業」と「地域盛り上げ支援事業」は有効だと考えています。それらをうまく使いながら、このまちと土地を、再びうまく住み熟していく方法を、みんなで編み出しませんか。また、新たな再定住場所から、ふるさとの小高を想ったり、通ったりしているみなさまとも、2019 年度からはご一緒できる機会をもてれば、と考えています。どうぞ、お気軽にお声かけください。

小高復興デザインセンターと一緒に活動していただいたみなさんへインタビュー

小高復興デザインセンターでは、多くのまちなか、行政区の皆さんと一緒に活動したり、また行政区の皆さんの活動のお手伝いをしてきました。わたしたちが一緒に活動した方に、小高復興デザインセンターとの活動を振り返り、いまの思いなどをお聞きしました！

東日本大震災後、ボランティアとして
関わり始めた南相馬市に移住

一般社団法人 オムスビ 代表理事 **森山貴士**さん

この一年ほど、森山さんが中心になって屋根園を整備されていかがでしたか？

菜園活動によって街の人達があつまるきっかけになるような兆しを見つけました。一方で菜園を維持したり、それを多くの人に喜んでもらえるような景観としてつくりこんでいくことの難しさを同時に感じています。

デザインセンターの活動に対して感じていること、デザインセンターが小高にあることでよかったことや、もしくはデザインセンターに期待することはありますか？

デザインセンターさんは、地域の人たちの考え、歴史、価値観をすごく丁寧に拾いながら、それを少しずつみんなの共通意識にしながら、地域の力に転換していこうという姿勢が明確に見えます。こういった動きをできている組織というのは極めて貴重ですので、今後もこの活動は継続していってほしいと思っています。あまりよそから人の組織にどうこういうものではないですが、せっかくこれだけ優秀な学生さんたちが集まっているので、現場の働きや記述をすることだけではなく、論文等のアカデミックな形で成果物を提示できたらいいなと思っています。

菜園講習会のまちあるきにて屋根園を訪れた時の風景

屋根園では、森山さん発案でパーゴラを作るなど、素敵な空間づくりが進んでいます

これからデザインセンターと一緒にやりたいこと、小高をどんな場所にしたいということははありますか？

デザインセンターさんとは、「まちの幸福度調査」を一緒にできないかなと思っています。地域の人たちの幸福がどういうところにあるのかというのをしっかり調査で掘り起こしつつ、それを具体的な事業活動でおしあげていく。そんなことができたら、まさに研究活動と民間の事業活動が連動していって、素敵な街になるのではと感じています。

すでにみなさんもこの地域の人間といって過言がないと思います。そういった人たちがここで十分にチャレンジして、立派な成果を出す。そういった場所をつくっていきたいですね。

津波被災により、塚原行政区から東町団地に移転

東町ひだまり菜園・いきいき菜園にご参加

松本四郎さん、**アヤ子**さん

松本さんは、デザインセンターでもお手伝いしている２つのまちなかの菜園に参加されていますが、最近の活動はいかがですか？

生き生き菜園の方も、行っていれば楽しくて、朝晩みんな来るんです。そっちの菜園でできたときは、これ食べないか～といっていたりもします。だけれどここはネギでもなんでもほとんどみんな植えているから。スイカなんかは植えなかったからもらったり、ネギくれたり、そんなことも、物々交換でしていました。今は、量的にそんなにつくらないから、おままごとみたいな感じではあるんですけれど。

東町ひだまり菜園は、デザインセンターと１年ほど一緒に活動してきました。年はみなさんで取り組まれているんですか？

13 人で続けていたけれど、今年は主には３人でやっています。他の方には配って歩いていたりもしました。何人かにはありがとうと言われましたよ。

我々が生きているうちにどんなまちになるかわからないけれど、病気にならないようにと思って。畑仕事をすると、体のためにはいいし、キャベツもネギ、大根も買わなくてもよいですから。やっぱり考えることがなくては人間終わりだと思っていますから。

東町団地の菜園を整備した時の記念写真！

東町ひだまり菜園で小高幼稚園園児さんと芋ほりをしたこともあります

団地暮らしという意味でも暮らし方は変わったと思いますが、まちなかで、生き生き菜園やひだまり菜園など野菜を作れるところがありますもんね。

体のためにいいかなと思っています。やられるうちは、やりますから。せっかく手伝ってもらった場所でもあるし、まだこれからも引き続きやるので、よろしくお願いします。

東京大学大学院都市工学専攻を修了後、NPO法人を立ち上げ

NPO法人　urban design partners balloon　代表

鈴木亮平さん

亮平さんにはまちなか菜園プロジェクトをお手伝いいただいていますが、改めて、いつから小高にいらしていますか？

2016 年 12 月に小高に初めてきて、2017 年 2 月から東町ひだまり菜園プロジェクトが始まり、それから月 1 くらいで継続的にきています。

小高に来て、まず東町ひだまり菜園でのプロジェクトが始まって 2 年ほど経ち、どのようなことを感じていますか？

小高では、「次はこれをやってみよう」ということが常にあるし、地元の方が新しいことを始めようとしている動きもあって、一緒に考えられたら面白いだろうと思っています。プロジェクトとしてもまだ始まったばかり。小高でやったことが他の地域にもつながりそうだし、来る価値のある場所だと思っているから、今後も続けて小高に来ようと思っています。

亮平さんは、他のまちでも空き地を使った菜園づくりなどをされていますが、外からの視点で見て、小高のまちの変化についてどう感じていますか？

空き地をうまく活用すると暮らしが楽しくなるというのは他の地域でもやっています。特に小高では、震災前から人口もだいぶ減り、このまちでの新しい暮らし方を考えるうえで、空き地が暮らしと切っても切り離せない空間になる可能性を感じています。まちの方がいろいろ考えていることが、空き地を使いながらまちの中に目に見える形で現れたら、空間が復興の過程をあらわす効果になるのではないかと思います。そのなかで、まちなか菜園も含めて、まちの中で出ている芽同士が互いに関係性を持ち始めると新しいまちなみができ始める予感がします。

東町団地での WS

これまでの取り組みの中で印象的だったことは？

屋根園で最初にＢＢＱをしたとき、小林友子さんが、「これが小高の進むみちかな」といってくれていたことかなと思います。自分もあんな景色がいいと思っていましたが、それをまちの方自身もそう感じてくれていたことが嬉しかったです。僕たちの仕事は、やることで満足するというより、いかに町の人の背中を押せるか、一緒に前を向けるかということ。だからまちの人自身がそう思ってくれたことに手ごたえを感じました。

双葉屋旅館 女将
はなみちプロジェクトチーム　代表

小林友子さん

友子さんはいろいろと小高の中でも活躍されていますが、はなみちプロジェクトチームとしても一緒にまちなか菜園の活動をしてくださっています。

ここで暮らしていくためにどうしたら放射能と向き合って生きていけるか学んで、ここに通い始めた時から、この状況を自分なりに伝えてきました。そのうちに若い人も自分たちの判断で来て仕事をしたり住み始めたりして、そんな時にやっぱり自分たちが住みやすく、住みたい町にしたい、という思いがありました。それは何だろう、というときに、デザインセンターの窪田先生たちは都市計画や空き地の活用を、私たちはどんな景色、どんなまちにしたいかを考えていました。空き地は増えるけれど、実際に住んでいると建物が建つ前もきれいでありたいと思って、そのときに、はなみちプロジェクトチームを提案してもらって、とりあえずやってみようと思って始めました。

まずはやってみる、ということで１年、はなみちプロジェクトの活動をやってみてどうでしたか？

ここの人たちは畑を本格的にやっていた人がほとんどだから、えっ、て言われるに決まっているけれど、実際にやってみないとわからないと思っていました。一度やってみたら、失敗してもうまくいっても次に行けるでしょ。建物ではなく、雰囲気や、人は少ないけれど、あの町いいな、というような町がほしかったから、プランターおくのはいいアイデアだなと思ったんです。本当はもうちょっと広がればいいけれど、ひとつひとつ。同じでなくても、プランターでいいんだ、と気づいた人が置いてくれたらいいし、実際にやってみて、あら？と気づくきっかけにはなっていると思います。

屋根園にて行った菜園交流会 BBQ

これからの小高はこんな場所になったら、という考えはありますか？

まず何か始めてみたら、何か言われても、変えることも、上乗せすることもできる。だから、他の場所でここがやれなかったことをやっていると悔しいけれど、小高は提案・発信の場所でもよいのかなと最近は思います。小高には日本中、世界中いろんな場所から人がきている、そんな場所だからいろんなことを試してみるのが一番だと思っています。

神山行政区　行政区長
吉岡千善さん

デザインセンターで神山行政区をお手伝いさせていただき、行政区の歴史をまとめた「神山今昔」を作るなどの活動をしました。取り組みを振り返っていかがですか？

頻繁にかかわってもらったのはこの１年。とにかく、ありがとうと感じています。全然我々が手を付けられなかったことに手を入れてもらって、我々の考えなどにもアドバイスしてもらったというのは、助かりました。ただもうちょっと集まるようにみんなに呼び掛けているんですが、これだけはできなかったです。

神山今昔を作ろうと思った思いは？

とにかくみんな、ふるさとを簡単に捨てていったという思いはあったし、残さなければならないという気持ちもありました。とにかく歴史的なものはつくりたかったのだが、周囲の人から歴史は大変だぞともいわれ、やってみて確かにそうだと思いました。でもやっぱりこれでこの地域も終わりかという危機感も持っている中で、どうしても、少しでも残しておきたいと思っていました。作成の過程の中で、行政区のみんなから写真を集めて語らいあったのは勉強になりました。

神山行政区では、この１年でグラウンドゴルフ、サロンなど集まる場づくり、月山神社のお祭りも再開してすごいですね。

デザインセンターに入ってもらわなかったらそこまでの動きは難しかったと思います。あれすっぺ、これすっぺと数人で言っていても大変でした。すっかり世話になって、いろんな知恵などいただいたから、これを活かしていかないとと思っています。とにかく、ありがとうございました。

神山史づくりで写真を囲みながら

今年整備したグランドゴルフ場。「毎日誰かしらきている」そうです

川房行政区　平成三十年度行政区長
黒木敏彦さん

川房公会堂の再生をセンターでお手伝いしています。

公会堂整備の検討をするために地域振興課に相談したらデザインセンターを紹介されました。川房役員会でセンターから集会施設の事例紹介やアドバイスがあって、単に改修するだけでなくて、川房に来たという感じがあるような特徴のあるものがいいんでねえかなという話になりました。当初は新築したほうが早いし安いと思っていたが、センターから紹介があった建築家の内藤廣さんから既存の石造り公会堂のよさを聞いて、残して改修した方がいいということでまとまりました。公会堂ができれば、役員会やサロンなどの集まりを川房でできるようになるし、戻ってきた女性たちが餅作りとかを気兼ねなくできるようになるでしょう。お墓参りや畑に来た方がちょっとゆっくりしていくのにも使ってもらえると有難いです。

デザインセンターの活動に対してどう思いますか？

小高志などの文章はあるが、よく見ていなかったです。今回は公会堂整備という具体の事業があったから本腰が入ったけど、そうでなければ関心は向きにくいと思います。

これからどんな地域にしていきたいですか？

現在、14戸で、時々来て泊まる人もいます。戻った方の中には静かに生まれ育った場所で過ごしたいという人もいるから、あんまり忙しくなっても大変。集まって話して、やりたいことが出てきたら、適度にやっていきたいと思っています。

現在の石造りの公会堂を活かす方針です

専門家を交え、役員会等で設計の検討を重ねています

小高復興デザインセンターは、今回お話を伺えなかった方も含め、
たくさんの皆さんとの協働・お声がけなどの中で活動してきました。
今回インタビューに応じてくださった皆様、どうもありがとうございました！

Live Lines Odaka
２代目活動報告

平成31年1月15日（火）午後6時半～、南相馬市役所にて、門馬和夫市長および紺野昌良小高区役所長の前で、2代目LLOが1年間の実践活動報告を行いました。

まず、「Odaka's Landscape」と名付けられた、LLOが地域の方々のご協力のもとで作成した小高区PR動画が上映され、小高の季節ごとの美しい風景に会場が包み込まれました。その後、地域住民との交流を目的として実施した数々のイベントや、他地域の高校生との交流を主眼に置いた視察研修等の報告をした後、次年度の活動計画について提案し、無事発表を終えました。

門馬市長からは、「活動から、地域の人たちに支えられていることがよく伝わってきた。社会に出た後にみんながどうなるのかが楽しみ」という講評をいただきました。紺野区役所長からは、「学校も部活動も異なり、集まるのも一苦労だったと思う。何のためにやっているのかもきちんと理解して取り組まれていることが分かった」と労いのお言葉をいただきました。3年生メンバーは3月で卒業ですが、後輩たちが引き続き頑張っていきますので乞うご期待！ 新メンバーも大歓迎です！！！

一人ずつ、ちゃんと発表を頑張りました！

終了後は、会場のみなさんと集合写真撮影！

「Odaka's Landscape」は、小高交流センター内の歴史文化コーナーにて上映されています。ぜひご覧ください！